

CSR重要課題(マテリアリティ)

雪印メグミルクグループは、ステークホルダーの皆様に向き合い、CSR(企業の社会的責任)に取り組む企業姿勢を示したCSR方針を策定するとともに、社会への影響度と雪印メグミルクグループの事業への影響度が高い社会課題を抽出し、社内外で協議・検討のうえ、KPI(重要管理指標)を設定しました。進捗状況を毎年CSR委員会および全社環境会議において報告して、課題を抽出し、PDCAサイクルを回すことで、雪印メグミルクグループの持続可能性の向上を図るとともに、社会課題解決に貢献します。

CSR領域	CSR重要課題(マテリアリティ)	重点取組みテーマ	達成年度
 食と健康	乳(ミルク)による食と健康への貢献    	安全で安心していただける商品・サービスの提供	2022
			2022
		健康寿命延伸への貢献	毎年
			2026
 酪農	持続可能な酪農への貢献     	酪農生産基盤強化への取組み推進	毎年
 環境	環境負荷の低減      	地球温暖化の防止	2030
			2022
			2026
		持続可能な資源の利用	2030
			毎年
			毎年
		循環型社会の形成	2030
			2030
 人と社会	多様な人材が活躍できる職場の実現     	人材の多様化と人材育成	2025
		ワーク・ライフ・バランスの実現と労働生産性の向上	毎年
	地域社会への貢献     	地域社会とのパートナーシップ	毎年

CSR方針

企業理念※1に基づき、事業活動を通じて、社会とともに持続的に発展していくための経営を推進します。

<基本的な考え方>

- コンプライアンス※2を基本とし、商品・サービスの安全確保（品質保証）の徹底を最重要項目として取り組みます。
- お客様・消費者をはじめとしたあらゆるステークホルダーを重視し、「社外の目」を反映した経営に取り組みます。
- 持続可能な社会の実現のため、CSRの重要課題（マテリアリティ）を特定し、社会課題の解決に向けて取り組みます。

※1 企業理念は、私たちの使命「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」と、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」で構成します。

※2 コンプライアンスには、法令の遵守はもとより、社内および社会の規範、社会の倫理的価値観の遵守を含みます。

KPI	2019年度 進捗状況
・ 2022年度までに、雪印メグミルクブランド製品を製造している国内外の食品施設の75%以上において、GFSIに認定された国際的な食品安全スキーム（FSSC、SQFなど）の認証を取得し、以降についても更なるGFSIの認証取得拡大を進める。（G）	・ 雪印メグミルクブランド製品を製造している国内外の食品施設の69%認証取得済み。
・ 2022年度までに、風味評価技能を持つ官能評価員認定者を育成する。（官能評価員認定者数：2017年度比110%以上）	・ 2020年度 官能評価員認定者数：1級 978名 + 2級 501名 = 1,479名（2017年度比114%）
・ 乳（ミルク）を通じて健康寿命延伸に貢献する研究開発、商品開発、サービス提供、情報発信を行う。（G）	・ 機能性表示食品「乳酸菌ヘルベヨーグルト ドリンクタイプ」、成長期の子供のカラダづくりに必要な栄養をサポートする粉末飲料「グリーンアップ MBP®」、グルコサミンとコンドロイチンが摂取できるタブレット「グルコサミン&コンドロイチン」を上市。 ・ 「サラダにチーズ」プロモーションを実施。サラダにチーズをプラスすることで、効率的に5大栄養素を摂取。 ・ 消費者向けに健康増進に貢献する企画「栄養まるっとスープ企画」「チーズでCa（カルシウム）を 骨応援隊企画」を提案。 ・ 健康寿命延伸に貢献する研究開発に関して、2019年4月から2020年3月の間に、関係する学会で13件発表（うち1件は受賞講演）し、学術雑誌に11件の論文が掲載。
・ 健康寿命延伸への貢献を重点テーマとした食育活動を実施し、2019～2026年度で年間平均4.5万人の参加者数を目指す。	・ 2019年度 参加者：38,618名（目標比85.8%）（新型コロナウイルス感染症の影響で2月20日～3月31日活動中止） ・ KPIとは別に、「骨・MBPセミナー」を実施し、9,415名が参加。
・ 日本酪農青年研究連盟の運営支援および酪農総合研究所の活動により、持続的酪農経営を行うための経営管理・技術的支援を行う。（G）	・ 日本酪農青年研究連盟主催の「第71回 日本酪農研究会」の運営支援。 ・ 2019年度「酪総研シンポジウム」を開催。
・ 2030年度までに、CO ₂ 排出量を2013年度比30%削減する。	・ 2013年度比：18.8%削減
・ 2022年度までに、使用する紙を100%環境に配慮した原材料にする。	・ 環境に配慮した原材料使用率：63.1%
・ 2026年度までに、認証パーム油100%調達を目指す。	・ 認証パーム油使用率：10%
新KPI ・ 環境に配慮した包装容器を開発・使用し、石油由来のプラスチックの使用量（売上原単位）を2018年度比25%削減する。	
新KPI ・ 紙・バイオマスプラスチックの容器を優先して使用する。	
新KPI ・ ペットボトルの使用量削減のために、社内のマイカップ・マイボトルを普及推進する。	
・ 2030年度までに、廃棄物排出量を2013年度比30%削減する。	・ 2013年度比：19.3%削減
・ 2030年度までに、廃棄物リサイクル率98%以上にする。	・ 廃棄物リサイクル率：98.6%
・ 2019年度までに、食品廃棄物リサイクル率95%以上にする。	・ 食品廃棄物リサイクル率：88.6%
・ 環境に配慮した商品開発を推進する。（既存商品・新規商品の賞味期限の延長や、賞味期限の年日表示を積極的に推進する）	・ 賞味期限延長（「雪印北海道100 粉チーズ芳醇」「チーズのための 玄米クラッカー」「スモーク香る スライス（7枚入り）」）
・ 水資源の有効利用を推進する。（2020年度末までに数値目標を設定する）	
・ 2025年度までに、女性経営職（管理職）比率10%以上にする。	・ 女性経営職比率：4.6%（2020年4月1日時点）
・ 健康経営優良法人制度認定を取得する。	・ 2022年3月認定に向け、情報収集・課題整理を実施。
・ 地域と連携し、社会課題解決に貢献する。（G）	・ 茨城県と連携し、不足がちな野菜とカルシウムを摂取できる茨城県産野菜と乳製品を使ったレシピを県庁食堂やスーパーなどで展開。 ・ 独立行政法人 都市再生機構が掲げる「地域包括ケアシステム」プログラムに参画し、食育・普及活動を通じたUR所有団地や周辺地域の活性化を図るための協定を締結。

（G）はグループのKPI。それ以外は雪印メグミルク単体のKPI。



食と健康

▶ CSR重要課題(マテリアリティ)

乳(ミルク)による 食と健康への貢献

雪印メグミルクグループは、乳(ミルク)による食の提供を通じて、人々の健康増進や豊かな食生活に貢献していきます。また、お客様の声に耳を傾け、商品・サービスに反映することで消費者重視経営を実践し、安全で安心していただける商品・サービスの提供を目指します。

新たな価値創造 QOL改善に貢献

目や鼻の不快感を緩和する!

乳酸菌ヘルベ



「乳酸菌ヘルベ」入りヨーグルトを12週間摂取したところ、目や鼻の不快感が有意に改善したほか、くしゃみの回数も有意に減少することが確認されました。「目や鼻の不快感を緩和する」という新たな価値を創造し、健康増進に貢献します。

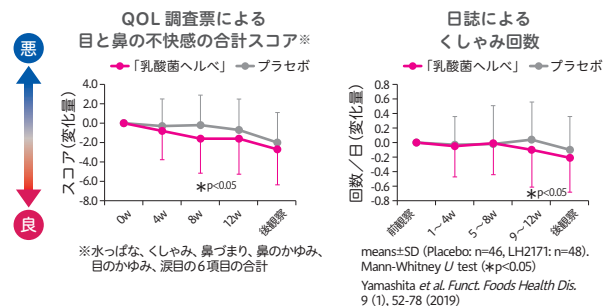
研究内容(2019年度)

「乳酸菌ヘルベ」のアレルギー反応抑制作用を確認

これまでの研究により、過剰な免疫応答を制御することが確認されていた*Lactobacillus helveticus* SBT2171(乳酸菌ヘルベ)について、アレルギー反応に対する効果をヒト臨床試験で評価しました。日ごろから目や鼻の不快感があり、ハウスダストまたはダニに対する抗原特異的抗体※1が陽性な健康成人男女100名(平均年齢39.6歳)を2群に分け、「乳酸菌ヘルベ」を含有するヨーグルトまたは「乳酸菌ヘルベ」を含有しないヨーグルト(プラセボ)を1日1本(100ml)、12週間摂取していただきました。その結果、「乳酸菌ヘルベ」を含むヨーグルトの摂取により、プラセボ群と比較して、目や鼻の不快感症状スコアが有意に改善し、くしゃみの回数も同様に有意に低下しました。

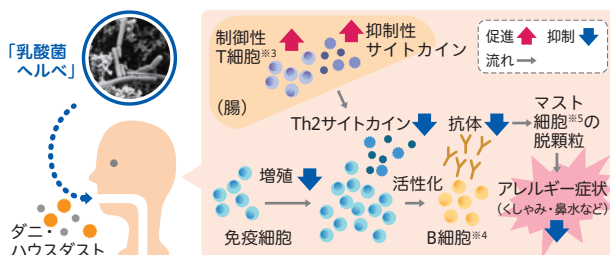
また、作用機序を明らかにするために、花粉アレルギーのモデルマウスを用いて、「乳酸菌ヘルベ」菌体を投与した時の免疫応答を調べました。その結果、「乳酸菌ヘルベ」は腸管免疫系を介して、アレルギー反応を引き起こす抗原特異的抗体の産生とTh2サイトカイン※2の産生を抑制することで、アレルギー緩和作用を発揮する可能性が示されました。

ヒト試験による効果の検証



「乳酸菌ヘルベ」を含むヨーグルトの摂取により、目や鼻の不快感が、プラセボ摂取と比較して有意に緩和された。

推定される作用機序



「乳酸菌ヘルベ」は腸管免疫系を介して、Th2サイトカインや抗体の産生を抑制することで、目や鼻の不快感を軽減する可能性が示された。

※1 抗原特異的抗体：ハウスダスト、花粉などのアレルギー(抗原)を認識したB細胞より特異的に産生される。体内に侵入したアレルギーと特異的に反応し、アレルギー反応を引き起こす。

※2 サイトカイン：細胞が分泌する液性因子であり、細胞間の情報伝達を仲介する。中でもインターロイキン(IL)と呼ばれる一連のグループは、主に免疫系の細胞から分泌され、免疫細胞の増殖や抑制などに働き免疫系が正常に働くために重要である。

※3 制御性T細胞：免疫細胞の一種で、過剰な免疫応答を抑制したり、免疫の恒常性維持を担う。

※4 B細胞：免疫細胞の一種で、抗体を産生することで生体防御に寄与する。

※5 マスト細胞：細胞質に多数の顆粒を持つ免疫細胞の一種で、抗原特異的抗体と抗原の複合体に反応し、顆粒からヒスタミンなどを放出することで様々なアレルギー症状を引き起こす。

食育活動※

全国6カ所に専任スタッフを配置し、小中学校への「食育出前授業」と各種「セミナー」「料理講習」の3つの活動を中心に、「食の大切さと尊さ」「牛乳・乳製品の価値」を幅広い年代の方に伝え、「食」を通して皆様の健康づくりのお手伝いをしています。2019年度は、38,618名が参加しました。



夏休み子供向け食育イベント



食育出前授業

※食育活動・工場見学は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2020年2月より休止していましたが、食育活動のみ6月より限定的に再開しています。

工場見学※

雪印メグミルクグループ全国11カ所の見学工場では、一般見学用ルートを設け、製造時における衛生管理や検査体制といった安全・安心に対する取り組みをはじめとした企業活動の情報発信を積極的に行っています。2019年度は、65,608名にお越しいただきました。なお、海老名工場は2014年、阿見工場は2015年に工場見学を開始して以来、各工場の来場者が5万人を達成しました。



海老名工場



阿見工場

先天性代謝異常症治療用特殊ミルクの開発と供給

特殊ミルクは、生まれながらにしてアミノ酸などの代謝が十分にできない方のために使用される粉ミルクです。通常のミルクや食事と合わせて使用し、症状改善のため

に食事療法として使用されます。雪印メグミルクでは、こうした方の治療のために、特殊ミルクを国内で初めて開発し、1963年から継続して製造・供給しています。

製造・供給している特殊ミルク品目



品目	対象疾患	
医薬品 (2品目)	Phe 除去ミルク配合散「雪印」	フェニルケトン尿症
	Leu, Ile, Val 除去ミルク配合散「雪印」	メープルシロップ尿症
登録 特殊ミルク (6品目)※	Phe 無添加総合アミノ酸粉末	フェニルケトン尿症
	Met 除去粉乳	ホモシスチン尿症
	Phe, Tyr 除去粉乳	高チロシン血症
	蛋白除去粉乳	高アンモニア血症
	Ile, Val, Met, Thr, Gly 除去粉乳	メチルマロン酸血症
	Lys, Trp 除去粉乳	プロピオン酸血症
		グルタル酸血症1型
		たんぱく質・アミノ酸代謝異常
		有機酸代謝異常

※「社会福祉法人 恩賜財団 母子愛育会 総合母子保健センター 特殊ミルク事務局」の指示により製造・供給



▶ CSR重要課題(マテリアリティ)

持続可能な 酪農への貢献

雪印メグミルクグループは、持続的酪農経営を行うための経営管理・技術的支援、そして酪農に対する消費者理解の醸成に向けた取組みにより、国内酪農の成長に貢献していきます。

雪印メグミルクグループが取り組む酪農貢献

グループ会社

1950年～ 雪印種苗(株)

配合飼料を中心とする「酪農畜産事業」、飼料作物や野菜などの種子・苗木の開発と生産を担う「畑作園芸事業」、屋上緑化などを得意とする「環境緑化事業」を中心に、環境保全型農業の普及を目指した事業活動を行っています。2017年には、北海道研究農場新研究棟が完成しました。



雪印種苗 北海道研究農場新研究棟

1954年～ ニチラク機械(株)

牛乳・乳製品などの食品工場向けの製造機器メーカーで、チーズ工房を営む酪農家に対しても小型製造機器の提供や技術指導を行い、酪農家の乳製品製造技術向上(六次産業化)に貢献しています。

酪農経営の調査研究と普及に資する組織

1948年～ 日本酪農青年研究連盟(酪青研)

雪印メグミルク、雪印種苗(株)、ハケ岳乳業(株)が、事務局として活動をサポートしています。

1976年～ 酪農総合研究所

民間唯一の酪農専門研究機関として設立。現在は雪印メグミルクの社内研究所として、調査研究や酪農サポートのほか、毎年シンポジウムを開催しています。

2009年～ 酪農諮問委員会

高い見識と豊富な経験を有する酪農生産者・有識者委員からご意見・ご助言をいただいています。



酪農諮問委員会

酪農理解のためのPR施設

1965年～ 雪印こどもの国牧場

様々な体験を通じて「食と命」を感じ取り、酪農への理解を深めていただくための活動を行っています。



雪印こどもの国牧場(横浜市)

1977年～ 酪農と乳の歴史館

歴史を振り返ることで、酪農への理解と関心を深めていただいています。北海道遺産、近代化産業遺産に登録されています。



酪農と乳の歴史館(札幌市)

「第71回 日本酪農研究会」開催

日本酪農青年研究連盟（酪青研）は、戦後の混乱期に北海道酪農の復興に取り組む酪農家たちの自主的な活動に共感した黒澤西藏※が尽力し、1948年に誕生しました。現在は、全国約1,700名の酪農家で組織する日本で最も歴史ある実践的研究団体です。雪印メグミルクグループでは、設立当初より事務局を担い、地域単位から全国における活動に対して継続的に支援をしています。

酪青研主催の「第71回日本酪農研究会」が、全国から約310名の参加者を集めて千葉県成田市で開催されました。全国から選抜された酪農家6名による酪農経営発表と5名の意見・事例発表が行われ、酪農経営のあり方を学ぶとともに、貴重な情報交換の場として大変有意義な研究会となりました。

また、人材育成および企業風土醸成の一環として、雪印メグミルクグループの若手社員が聴講生として参加し、日本酪農への理解を深めるとともに自身の業務がどのように酪農生産への貢献につながっているかを考える良い機会となりました。

※ 1885年生まれ。雪印メグミルクの前身の一つである北海道製酪販売組合連合会、北海道酪農義塾（現・酪農学園大学）の創立者。北海道開発と日本の酪農の発展に尽力した。



酪総研シンポジウム

酪農総合研究所（1976年設立）は酪農に関わる調査研究、酪農サポート活動のほか、「酪総研シンポジウム」を1978年※から毎年継続して開催しています。

「酪総研シンポジウム」は時流に左右されないテーマ設定を骨格とし、制度、政策から実際の生産現場での活用技術について酪農に携わる方から提言・知見・情報提供などをいただき、会場参加者との総合討議を通じ酪農情勢などの共通認識の醸成、知見・技術の現場への活用、普及を図ることで酪農生産現場への貢献を果たしています。

2019年度は「酪農現場のリスク管理を考える」を新たなシリーズテーマに設定、「気候変動に備える」と題して開催し、全国から約210人の酪農関係者が参加しました。酪農を取り巻く環境の中から気候変動を取り上げ、3名の専門家の方に「自給飼料生産をメインとした気候変動に備えるリスク管理」について講演いただき、会場参加者との意見交換を行いました。

これからも「酪総研シンポジウム」を継続して開催し、酪農の継続的発展に寄与していきたいと考えています。

※ 開催当時の名称は「酪農講演会」



Voice



農事組合法人
ミルキーウェイ
代表理事
小島 克也

雪印メグミルクグループと興部町の酪農は、「車の両輪」のように発展してきました。

私が酪農を営む北海道興部町と雪印メグミルクとの関係は非常に歴史が古く、雪印乳業の前身である北海道製酪販売組合連合会（酪連）が、1934年に興部工場を操業してからとなります。興部町で搾られた生乳はすべて、雪印メグミルク唯一の練乳工場である興部工場へ出荷され、製品となった練乳は全国の消費者の方々へ届けられています。酪青研興部地方連の会員は53名おり、昨年は練乳を使った料理講習会を行うなど活動を行っています。また、酪農総合研究所の経営実証農家・実証圃場調査研究も2019年度まで行われ素晴らしい成果をあげるなど、雪印メグミルクグループと興部町の酪農は、「車の両輪」のように発展してきました。今年は新型コロナウイルスの影響で延期となりましたが、来年は札幌で「第72回 日本酪農研究会」が無事開催され、多くの皆様と再会できることを心より祈念しています。



環境負荷の低減

雪印メグミルクグループは、従業員一人ひとりが環境に配慮した事業活動を心がけ、限りある資源を有効に活用し、持続可能な地球環境に貢献していきます。

環境マネジメント

雪印メグミルクの環境マネジメントは、「雪印メグミルク環境方針」に基づき、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員を環境統括責任者とする環境マネジメントシステムによって総合管理をしています。また、各部門に環境管理責任者を置くことで、全員参加型の環境マネジメントに取り組み、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを推進しています。

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステム(EMS)※を構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例などを遵守し、法改正などに迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

※ 環境方針・環境目標・計画の策定と実施および監視と測定・監査・見直しといった一連のプロセス

環境マネジメント体制図

環境最高責任者：代表取締役社長

- ① 環境方針の制定および見直し
- ② マネジメントレビュー(経営層による見直し)の実施
- ③ 環境担当役員の任命
- ④ 全社環境会議の開催

環境統括責任者：環境担当役員

- ① EMSの総合管理
- ② 全社環境目標の承認
- ③ 環境最高責任者への情報提供
- ④ 全社環境会議の運営 など

全社EMS事務局長 (CSR部長)

- ① 全社EMS事務局業務の統括
- ② 環境統括責任者の補佐 など

全社EMS事務局 (CSR部 環境グループ)

- ① EMSに関する管理・運用・外部環境審査対応
- ② 内部環境監査対応

全社環境会議

- 管理部門
- 研究部門
- 調達部門
- 生産部門
- 営業部門
- 物流部門
- グループ会社

全社環境目標の協議と進捗管理を行うとともに必要な措置の決定を行い、EMSが適切で効果的に機能していることを確認する会議

ISO14001 認証取得

事業活動が及ぼす環境への負荷を少なくするために環境保全に積極的に取り組んでいます。そして、その成果を客観的に示すため、ISO14001を認証取得しています。現在は、雪印メグミルク、みちのくミルク(株)、いばらく乳業(株)、ハヶ岳乳業(株)の4社で認証を取得しています。



審査風景(阿見工場)



審査風景(野田工場)



審査風景(トップヒアリング)

環境監査体制

環境監査には審査機関による外部審査と社内で行う内部監査があり、EMSの運用状況や法令遵守の状況を総合的に確認しています。雪印メグミルクの内部環境監査は、生産部が行う第一者監査と、CSR部が行う第二者監査の2種類を組み合わせ実施しています。第一者監査では業務を良く知る監査員による業務改善効果が、第二者監査では客観的な立場からの法令チェックや課題抽出に大きな効果が出ています。



内部環境監査(東北統括支店)

環境教育

全社EMS事務局が主催するe-ラーニングや、内部環境監査員養成研修、部署独自に実施する個別教育など、各種の環境教育制度があり、環境意識の向上を図っています。階層別e-ラーニングのうち、一般教育コースでは雪印メグミルクの全役員・従業員(約4,100名)に受講を義務付け、毎年受講率100%を達成しています。



環境研修(本社)

各部門の取組み

雪印メグミルクグループは、製品ライフサイクルの各工程で多くの天然資源・エネルギーを使用していますが、その一連の工程で発生する資源のロスや環境負荷をできるだけ小さくするため、各部門で様々な取組みを行っています。

管理部門	クール・ビズやウォーム・ビズによる冷暖房に必要なエネルギーの抑制やIT化によるペーパーレス化など
研究部門	環境に配慮した商品設計など
調達部門	プラスチック容器の薄肉化や環境に配慮した容器への変更など
生産部門	エネルギーの効率化や排水の浄化処理など
営業部門	エコドライブの推進とハイブリッド車の積極的導入など
物流部門	原材料や商品の輸送でモーダルシフト※や積載率の向上、他社との共同配送など

※ 貨物輸送を自動車から鉄道・船舶へと切り替えることでCO₂排出量を削減し、環境負荷を削減する手法

環境イベントへの積極的な参加

8月、子供たちに対して、環境やSDGsへの意識醸成を図り、自ら考え、行動できる人材の育成を目指す京都府南丹保健所の「京都丹波スマート環境学習」に京都工場が参加しました。子供たちは、京都工場内の生産工程や排水処理施設、紙パックのリサイクルのパネルや展示物、DVDを通して、環境保全の取組みや紙パックリサイクルの重要性について理解を深めました。

12月の「エコプロ2019」に全国牛乳容器環境協議会の一員として参加しました。全国牛乳パックの再利用を考える連絡会と協働し、牛乳パックの手開き体験や手すきはがきづくり体験、ワークショップなどを通じてたくさんの方々に牛乳パックリサイクルの大切さをお伝えしました。



京都丹波スマート環境学習の様子(京都工場)



エコプロ2019(東京ビッグサイト)

スコープ3の公表

事業活動を取り巻く、サプライチェーン(製品の原材料の調達から、配送・販売・消費まで)から排出されるCO₂の量をスコープ3といいます。地球温暖化の防止に向けて、スコープ3を各段階で算定・把握し、サプライチェーン全体で効率的に削減することが求められています。雪印メグミルクでは、排出量に関する国際的基準の1つである、スコープ3基準により、サプライチェーン全体のCO₂排出量を算定し、2020年より社外に向けて公表しました。

環境保全活動の推進

<https://www.meg-snow.com/csr/environment/burden.html>

エネルギー使用量の削減

雪印メグミルクでは、順次更新する冷凍機を省エネタイプのものとし、また、運用改善においては、夜間使用する冷凍機の運転台数を少なくするなど、省エネを実施しています。なかしべつ工場では、2月に生乳受入設備(クーラーステーション)の冷凍機を新設しました。冷凍機の設置場所を生乳受入設備の近くにすることで、配管を短縮し、放冷によるエネルギーロスが抑えられました。これにより、約10%のエネルギー使用量削減効果が期待できます。



冷凍機(なかしべつ工場)

廃棄物(汚泥)発生量の削減

工場が一番多く発生する廃棄物が、排水処理後に排出される汚泥です。雪印メグミルクでは、排水処理設備の更新(磯分内工場)や、処理能力向上(大樹工場)による汚泥の発生量削減に取り組んでおり、2019年度は前年と比べ汚泥発生量を6%削減することができました。

2019年度実績※ ※カテゴリ8~11、13~15は算定外		
上流	自社	下流
カテゴリ1 購入した製品・サービス 167.3万t-CO ₂ カテゴリ2 資本財 6.9万t-CO ₂ カテゴリ3 スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 3.5万t-CO ₂ カテゴリ4 輸送・配達(上流) 10.8万t-CO ₂ カテゴリ5 事業から出る廃棄物※ 0.1万t-CO ₂ ※輸送、処理に伴う排出	スコープ3 その他の間接排出 カテゴリ6 出張 0.1万t-CO ₂ カテゴリ7 雇用者の通勤 0.3万t-CO ₂ スコープ1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工事プロセス) 11.4万t-CO ₂ スコープ2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出 11.3万t-CO ₂	カテゴリ12 販売した製品の廃棄 3.1万t-CO ₂ スコープ3合計 192.1万t-CO ₂

「サプライチェーン排出量算定の考え方」(環境省)を加工して作成

カーボン・オフセットの取組み

カーボン・オフセットとは、植林などの森林保護やクリーンエネルギー事業で削減されたCO₂をクレジットとして購入することにより、企業活動で排出されたCO₂の一部を間接的に埋め合わせ(オフセット)する制度です。雪印メグミルクは、中標津町(北海道)の「中標津町町有林J-クレジット」、大樹町(北海道)の「晩成温泉への木質バイオマスボイラー導入事業に係るJ-クレジット」を購入しています。2020年度は「北海道 道有林オフセット・クレジット」を購入することを通じて、北海道の森林保護に寄与しています。



中標津町
オフセット証明書



大樹町
オフセット証明書



北海道 道有林
オフセット・クレジット
証明書



排水処理設備
(磯分内工場)

調達活動

「雪印メグミルクグループ調達方針」に基づき、公正な取引、人権・環境などの社会的責任と持続可能性に配慮したうえで原材料などの調達活動を推進していきます。また、お取引先様の取組み内容についても定期的に調査を実施しています。

雪印メグミルクグループ調達方針

雪印メグミルクグループは、グループ企業理念のもと、「雪印メグミルクグループCSR方針」にのっとり、主体的に、企業としての社会的責任に配慮した調達活動をお取引先さまと共に推進し、豊かで持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 法令の遵守、社会規範の尊重

- ・関係各国の法令を遵守し、社会規範を尊重して調達活動を行います。
- ・基本的人権の尊重、労働環境の改善等の社会的責任にも配慮して調達活動を行います。

2. 品質・安全性の確保

- ・高品質で安全な商品を提供するための調達活動を行います。
- ・安定的かつ適正な価格で商品を提供できるように調達活動を行います。

3. 公正・公平な取引の実践

- ・お取引先さまとは公正・公平な取引を行います。
- ・調達取引に関わる機密情報および個人情報、適正に管理します。

4. 地球環境への配慮

- ・私たちの基盤である「酪農」は、豊かな自然環境があって初めて成り立ちます。持続可能な社会の実現に貢献すべく、生物多様性を重視し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

■ 森林認証紙の使用

使用する紙については可能な限り、持続可能性に配慮した森林認証紙への切替えを順次進めています。責任ある森林管理をされた森林および、そこから生まれた林産物に対する国際的な森林認証制度であるFSC™またはPEFCの森林認証紙を、「雪印メグミルク牛乳」などの商品容器に採用しています。商品に関わる紙容器や外装ダンボールだけでなく、印刷用紙・印刷物・店頭販促資材についても取り組んでいます。



森林認証紙使用商品



FSC™
認証マーク



PEFC
認証マーク

(注)SGEC/PEFCジャパンの許可を得て掲載しています。

■ RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議)への加盟

パーム油の原料となるアブラヤシの農園開発のため、マレーシアやインドネシアを中心とした多くの熱帯雨林が焼き払われるなど、問題が指摘されています。このような問題に取り組むため、2004年にパーム油生産業、小売業、環境NGOなど、7つの関係団体が中心となり、認証機関RSPOが設立されました。雪印メグミルクも、健全なパーム油産業の発展を目指す趣旨に賛同し、2018年7月、RSPOに加盟し、認証油の使用を一部商品から開始しています。

プラスチック使用量の削減

雪印メグミルクでは、CSR重要課題(マテリアリティ)のKPIの1つにプラスチック使用量の削減を掲げており、商品容器の軽量化などにより取り組んでいます。野田工場では、製造している「ナチュレ 恵 megumi フルーツヨーグルト」のプラスチック容器の軽量化に取り組み、2019年度に6%の軽量化を実現しました。軽量化により年間23tのプラスチック使用量削減につながる見込みです。

2019年度 年間
6%軽量化 ➡ 23t※使用量削減
(見込み)
※2019年度生産量から試算



ペットボトルの作業服へのリサイクル

雪印メグミルクの全16工場といばらく乳業(株)で使われる作業服の生地には1着あたり約18~29本の使用済みペットボトルを使用しています。



エコロジーウェア®マーク



▶ CSR重要課題(マテリアリティ)

多様な人材が活躍できる 職場の実現

雪印メグミルクグループは、性別・年齢・国籍・障がいの有無など様々な背景を持つ人が、それぞれの個性を認め、尊重し、互いの能力を発揮することで相乗効果を生み出す企業を目指しています。また、育児や介護をはじめとした多様な働き方をサポートするための環境整備にも注力しています。

働き方改革／ワーク・ライフ・バランスの実現

2016年度から取り組んでいる働き方改革では、時間外労働時間は28.9%削減(一般職、2015年度上期比)を達成し、着実に成果をあげています。Web会議拡大による効率的な会議の推進、ペーパーレスの会議や文書管理システムの導入、業務の効率化・スリム化による労働生産性の向上を図っています。

これらの取組みにより、従業員の有給休暇の取得率は80.7%、取得日数は2015年度と比較して1.3倍に向上しました(全従業員)。2018年度に導入した在宅勤務制度は、育児や介護など制約のある社員による利用や、ライフスタイルに応じた利用が拡大しています。

主な取組み		時間外労働時間の減少／有給休暇取得率 P.16
労働生産性の向上と 業務改革	タイムマネジメントの強化 (2019年度末 時間外労働時間の目標削減率：20%(2015年度上期比))	・パソコンのログイン／ログオフ時刻記録を活用した意識向上 ・部署単位での時間外労働状況の分析と削減目標の設定 ・全社目標達成率に応じた従業員への還元(インセンティブ手当の支給)
	有給休暇の取得推進 (2019年度末 目標取得：70%以上)	・シフト見直しなどによる取得しやすい環境の整備 ・半日有給休暇制度の導入
	チャレンジ3／4活動	・部署単位で業務の効率化・スリム化推進 ・取組み効果の目標設定および進捗確認
	業績評価との連動	・取組み結果の人事評価への反映
働く環境の整備	効率的な会議の推進	・会議進行の改善による円滑化・効率化
	ペーパーレス化	・会議室機材やテレビ会議・Web会議システムの整備、文書の電子化などにより、効率的な会議の推進、働く場所の多様化へつなげる
	在宅勤務制度	・柔軟・効率的な就業環境の整備、ライフスタイルに応じた働き方の推進
	サテライトオフィス	・営業担当者の社外オフィス活用による時間の効率化、生産性の向上(首都圏エリア)

Voice



雪印ビーンスターク(株)
東日本統括支店
企画課
中島 都

短時間勤務と在宅勤務の制度を利用し、仕事と家庭の両立を図っています。

私は、主に産婦人科で妊産婦に対し、粉ミルクや育児用品の普及活動を行っています。私自身2回の産休・育休を経て、現在は短時間勤務と在宅勤務の制度を利用し、仕事と家庭の両立を図っています。短時間勤務という限られた時間の中で業務を遂行するには、各種制度の存在とともに、上司や同僚の理解と協力も必要不可欠となりますが、会議時間の設定や業務の協力・調整を気軽にお願いできる雰囲気づくりなど、ソフト面でも環境を整えていただき感謝しています。2020年4月より関東企画業務を担うこととなり、栄養士業務の企画立案・業務推進に注力するとともに、アフターコロナでの新しい業務スタイルの確立のために動画作成や研修のリモート化など、積極的にチャレンジしていきたいです。

人材育成

雪印メグミルクグループは、「最大の経営資源は人材である」との考えのもと、スキル開発に軸足を置いたプログラム、人材の多様性確保を目的としたキャリア開発支援、グループ会社の研修開催など、グループ全体での人材育成に取り組んでいます。

■ スキル開発

階層別の各役割要件にあったスキル・マインド・思考などのビジネススキルの強化と、機能部、事業部による専門知識・スキルを強化する研修を実施しました。また、2019年度から論理的思考やアカウンティングなどの公募型研修について、7カリキュラムを開催し、グループ会社も含め約200名が参加しました。

■ キャリア開発

2018年度に引き続き、人事部の有資格者によるキャリアカウンセリング、および上司によるキャリア面談を実施しました。2019年度からは、節目(30歳・38歳)においてこれまでのキャリアを振り返り、今後のキャリアの方向付けを行うことを目的として、「ワークショップ キャリアドック30・38」を、また、年齢を問わずキャリアについて考える機会を提供するため、公募型研修として「ワークショップ キャリアデザイン」を開催し、約200名が参加しました。

人権尊重の取組みの強化

2020年6月、「国連グローバル・コンパクト」に署名し、その価値観に対する支持を表明しました。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則に関する取組みを通じて、持続可能な社会に貢献する取組みを強化していきます。

これまで、「雪印メグミルクグループ行動規範」「雪印メグミルク行動基準」に基づき、各部門で人権尊重を推進してきました。今後は、サプライチェーン上にある、事業活動に関連する人権への負の影響を特定し、優先順位を付けたいと、その防止と軽減を図るよう努めます。



人材の多様性確保の取組み

様々な環境変化に適応し、持続的に成長していくため、多様な人材が能力を発揮する環境を作り上げることを中核的な位置付けとし、取り組んでいます。

■ アンケート活用による人材の多様性の風土改革

人材の多様性確保と働き方に関する従業員意識調査を3年に1回実施しています。前回の2016年の調査では、人材の多様性の取組みへの理解、性別による役割分担意識や人材育成、働き方について、課題が浮き彫りになりました。3年計画で、全階層に対する情報発信やスキル習得研修、キャリア開発支援の仕組みの構築、生産性向上や育児と仕事の両立支援など、約20施策を実施したところ、2019年の調査では、「人材の多様性のメリットへの理解」「重要な業務を任せる際の男女差」「長時間労働を是とする風土」「研修・教育機会の提供」などが大幅に改善しました。

■ 育児休務者の仕事と家庭の両立支援

出産・育児と仕事の両立を支援するため、男女の育児休務者に対して、休職中の職場との連絡体制や自己啓発、復職前面談などのプログラムを提供しています。また、休務者の上司・所属長は、子育て中の社員の働き方や支援方法を理解するe-ラーニングを受講します。2019年の男性社員の育児休業取得率は、2017年度と比較して、ほぼ倍増となりました。

■ 女性のリーダーシップ強化

キャリアアップに向けて、主体的に行動することへの意識づけや、組織成果を高めるための影響力の強化を目的とした研修を実施しました。なかでも、社外ネットワークを構築できる外部研修に参加することで、社内では気づくことができない役割やキャリアの認識を把握したうえで、キャリアステップに必要な意識・スキル・思考力の強化を図りました。



ワークショップ 女性リーダーチャレンジフォローアップ

■ LGBTへの理解、職場づくりのe-ラーニングの実施

LGBTに対する基本的な知識を身につけ、当事者やその周囲の人がストレスなく、より成果を上げる働き方ができるよう、配慮や言動について全経営職・職制1,005名が受講しました。



地域社会への貢献

雪印メグミルクグループは、事業活動を通じて地域社会と交流し、連携することで、人や社会との調和を図り、地域社会に貢献しています。

北海道包括連携協定

雪印メグミルクグループは、北海道と包括連携協定を2007年に締結し※、乳製品製造などで培った技術を活かして、「酪農」や「食」の分野で北海道経済の活性化に取り組んでいます。 ※2007年当時は、雪印乳業(株)、雪印種苗(株)、(株)雪印パーラーと北海道との協定

具体的な取り組み事項

1. 「酪農」の振興に関する事項

- ・チーズ製造技術の普及支援 など

2. 「食」の安全・安心、産消協働※に関する事項

- ・道産食品の安全・安心に向けた取り組みの支援 など

3. 子育てや健康づくりに関する事項

- ・子育てに関する地域活動の支援
- ・食育や健康づくりに関する支援
- ・スポーツの振興に関する支援 など

4. 北海道の魅力ある「観光」の振興に関する事項

- ・「花観光」に関する支援
- ・世界自然遺産
- ・北海道遺産に関する普及啓発
- ・雪印メグミルク「酪農と乳の歴史館」における北海道観光PR など

5. その他必要と認める事項

- ・環境に対する取り組み
- ・防災活動への支援
- ・北海道の広報活動への協力 など

※地域の消費者と生産者が連携し、地元の資源や生産物を地元で消費・活用することにより、域内循環(人・もの・お金の流れ)を高めて地域経済の活性化を図る運動

さっぽろまちづくりパートナー協定

雪印メグミルクは、札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しています。「酪農と乳の歴史館」の見学者数に応じ「さぽーとほっと基金」に寄付を行い、子供の健全な育成を支援する活動を応援しています。2019年度も「酪農と乳の歴史館」の入館者1人につき10円を寄付しました。



酪農と乳の歴史館(札幌市)

茨城県との「健康寿命延伸」の取り組み

雪印メグミルクと茨城県の営業戦略部は、日本人の野菜不足、カルシウム不足の課題に対して協力し、茨城県産野菜と乳製品の消費拡大につながる、1日の1/2分の野菜(175g)と、不足しているカルシウム(223mg)が1品で摂れるレシピを開発しました。第1弾として「れんこんと水菜の和風グラタン」を発信しました。レシピは2カ月に1回発信して、茨城県庁の食堂のランチメニューとして提供し、スーパーの店頭で当該レシピを掲載したPOPの展開にも力を入れます。現代日本人の課題である野菜とカルシウム不足の解消に向けて、事業を通じた社会課題解決に取り組めます。



茨城県関係者との
取り組み発表会



れんこんと水菜の
和風グラタン

災害対策を通じた地域とのパートナーシップ

雪印メグミルクのなかしべつ、阿見、海老名、神戸の各工場は、近隣地区と覚書を締結し、大規模災害発生時に地域と工場が相互に協力して避難場所や物資の提供を行い、被害軽減に取り組みます。更に(株)エスアイシステムでは、災害発生などの緊急事態時に停電が起きた場合、近隣企業や住民の皆様へ無償で飲料を配布できる災害救援用自動販売機を、全国の運営センターに設置しています。

フードバンク活動の支援

雪印メグミルクは、生活困窮家庭や福祉施設などに食品を提供するフードバンク活動を行うセカンドハーベスト・ジャパン(認定NPO法人)と「食品等の提供・譲渡に関する合意書」を12月に締結しました。出荷鮮度切れや商品改廃などによって出荷できなくなった商品を提供することで、食品ロス削減対策も組み合わせた社会貢献に取り組めます。同月、「濃厚ミルク仕立てフロマージュミルク」を、3月に雪印ビーンスターク(株)より「プラチナミルク for バランス」を提供しました。



食育活動による地域連携・協力

雪印メグミルクと独立行政法人 都市再生機構 (UR都市機構)は、大阪を中心とした近畿圏の一部のエリアのUR賃貸住宅団地および、その周辺地域において、多様な世代が生き生きと健康に暮らせるまちづくりに資することを目的として、3月に地域連携・協力に関する協定を締結しました。雪印メグミルクは、UR賃貸住宅団地やその周辺地域で、雪印メグミルクの食育活動「骨・カルシウムセミナー」や「チーズセミナー」などを実施します。



UR都市機構との地域連携・協力に関する協定 調印式

地産地消の促進

(株)雪印パーラーは、北海道弟子屈町産ブランドいちごの「摩周ルビー」を使用したパフェ1品、ミニパフェ1品を1月に発売しました。「摩周ルビー」は、弟子屈町において再生可能エネルギーを使った電力や地熱を利用するなど、地球環境の保全に貢献しながら栽培されています。「摩周ルビー」を商品に使用することにより、持続可能な農業を支援するとともに、地産地消を推進し、地域の活性化に貢献します。



摩周ルビーパフェ

地域との交流イベント

雪印種苗(株)は、地域との交流を行うための検討チームを発足し、雪印種苗本社(札幌市)の周辺地域住民からの「雪印種苗の史跡や施設を見たい」との声を実現して、「敷地内史跡めぐりと施設のご案内」を開催しました。抽選で83名の方に来訪いただき、本社敷地内にある「雪印バター誕生の記念館」「恵庭荘」「酪聯(らくれん)発祥の地」「旧宇納牧場サイロ」「札幌種子センター」など、日頃一般公開されていない施設も含め案内し、地域住民との交流を図りました。



地域交流の様子

Voice



雪印メグミルク
マーケティング部
マーケティング企画G
(東北統括支店駐在)
春田 裕子

宮城県民や東北地方の皆様の「今」そして「未来」の幸せの実現に、お役に立てればと思います。

東北統括支店は、宮城県が推進する「スマートみやぎ健民会議」の応援企業として、地域の社会課題解決に向けた取組みを支援しています。当会議は、「脱メタボ」「運動の促進」「野菜摂取量の促進」を中心に、産官学一体で取り組んでいます。「県民の皆様の悩みを解決するには何をすべきか？」と新しいアイデアを考えながら進めています。昨年は、県開催のセミナーで、自宅でできる筋トレや内臓脂肪を減らす機能性表示食品の紹介、また、地元企業様と協働で、たんぱく質・カルシウムを含む健康を考えたレシピを考案し、店頭で発信しました。今後も、宮城県民や東北地方の皆様の「今」そして「未来」の幸せの実現に、お役に立てるよう取り組んでいきます。